

三種町議会 定例会

令和4年6月三種町議会定例会が、6月9日から23日までの会期で開催され、令和4年度三種町一般会計補正予算（案）などの議案等を審議し、原案どおり可決されました。施政方針および行政報告の要旨と審議された主な議案等についてお伝えします。

施政方針

このたびの町長選挙において、無投票という結果で引き続き町政を担わせていただくこととなり、その責任の重さに改めて気の引き締まる思いであります。

1期目を振り返りますと、行政の継続性の観点から、町にとって有益かつ必要な事業を計画通り進めること、そして視点を変え新たな可能性を見出し、変化する情勢を見極めながら町政を進めることに主眼を置き、取り組んでまいりました。

山本地域拠点センターや子育て交流施設をはじめとした公共施設の建築・改修や再配置、道路改

修、そして、巡回・ふれあいバス事業の創設、森岳温泉活性化に取り組みつつ、子育て・若者世代の定住施策を充実させるなど少子化対策、小中学校再編などの各分野の施策を展開してまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症により、新たな生活様式への転換を余儀なくされ、自粛や制約のある生活を受け入れ、不安の中で生活を送るみなさまを支援するため、独自の経済対策や支援策の実施により地域経済を支え、安心して生活できるよう努めてまいりました。

2期目のスタートにあたり、「三種町みらい創造プラン」にある町の将来像、「人・地域がつながり、元気を未来へつなぐ町」を実現していくための施策を着実に進めるとともに、今後4年間で特に力を注ぐ施策について申し上げます。

◆若い世代の定住促進や少子化対策

進学により町外で居住している学生へ、町の産品とメッセージを送ることで、卒業後のふるさと回帰のきっかけをつくることを目的に創設した、「三種ふるさと便事業」を推進します。さらに、小・中学校生に対しては町の魅力や町内の事業所を紹介する「ふるさと教育」を充実させ、より若い世代のうちからふるさと回帰の機運を高めてまいります。

子どもを持ちたい方が安心して産み育てることができるよう開設する「子育て交流施設」において

は、妊娠期から子育て期における相談支援のワンストップ化によりサポート体制を充実、強化するとともに、子育て世代の経済的負担を軽減するため、学校給食費の全額無料化に向けた検討をはじめます。

保育・教育環境の整備においては、小中学校の統合を計画的に推進するとともに、令和5年度に金岡保育園を森岳保育園に統合、社会福祉法人たつの子会が計画中の保育園建設事業に対しても、八竜地域における保育環境の維持・向上を図る観点から支援を行ってまいります。

雇用の確保においては、雇用の安定と就業機会の拡大を重点施策として、町内企業等が健全な経営を継続できる支援を引き続き展開し、本町の産業振興および雇用拡大を目的として誘致の取り組みを行っている「CCSプラント施設」については、国の目指す「脱炭素社会」の実現に向けた動きに注視しながら、今後も関係機関と連携し、実現に向けて努力してまいります。

また、洋上風力発電事業や能代市への中国木材の工場新設など、新規雇用が見込まれることから近隣市町村との連携を強化し、雇用の確保に努めてまいります。

◆観光資源の充実と交流人口の拡大

地域連携観光DMO「あきた白神ツーリズム」と連携し、観光戦略等の合意形成を図りながら、新

型コロナウイルス感染症の収束後におけるインバウンド誘客に向けた観光地域づくりを推進し、森岳温泉街活性化においては、ハードおよびソフト事業を順次実施しながら森岳温泉街の活性化に取り組んでまいります。

◆基幹産業の振興

農林水産業の振興においては、土地改良をはじめとした基盤整備を進め、スマート農業技術の導入を通じて、若い方がたを含む農業関係者が前向きに携われる環境を整えてまいります。

町の特産品であるじゅんさい生産数量助成やメロン産地育成、ほ場消毒助成などの事業を継続し、県の振興作物拡大のための「農業夢プラン」応援事業や新技術の定着・生産性向上を図るための助成も行っております。

◆高齢者福祉

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう、医療や介護、生活支援、福祉サービスが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の基盤づくりに取り組みとともに、高齢者の豊かな知識・経験を活かし高齢者が活躍できるよう、シルバー人材センターの機能充実に向けた支援を実施してまいります。

◆地域コミュニティの活性化

自治会助成金や集会所等施設整備補助金を継続しながら、人口減少や高齢化などにより多様化している地域課題の解決のため、住民